

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 国文学科・助手

申請者氏名 中津 陽菜

研究課題		三重県における方言アクセントの研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、三重県における方言アクセントを記述し、それを日本語諸方言アクセント研究の上に位置付けることである。調査対象地域は三重県の中でも特に伊勢志摩地域に焦点を当てる。当該地域のアクセントは京都・大阪などによく似た京阪式アクセントを持つとされるが、近年はあまり調査が行われてこなかった。まずフィールドワークにより当該地域のアクセントを採取し、そしてそれを史的・地理的・社会的観点から分析する。
	研究の 結果	本研究では、三重県度会郡旧南勢町（神津佐地区）において、三拍動詞五段活用第1・2類のタ形アクセント（「上がった」「探した」等）に年代による変化が生じていることを明らかにし、その要因について考察した。三拍動詞五段活用第1・2類のアクセントは、歴史的にはそれが第1類であるか、第2類であるかという類別によって分かれていたことが文献や他方言の調査によって明らかになっている。また、京都の中年層においてはその区別が失われ、代わりに3拍目の種類による新しい区別を獲得していることも先行研究によって明らかであった。本研究では、旧南勢町の幅広い年代を対象とした調査結果から、その要因が3拍目の有声性にあることが示唆された。
	研究の 考察・ 反省	データの少なかった地域と言語現象についてデータを提出できたことは有意義であったが、研究成果物として形にできたものは少なかった。今後も調査を進めたい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	【研究発表】 - 日本語学会 2024年度春季大会 「三重県旧南勢町における三拍動詞五段活用第1・2類のタ形アクセント変化；類による区別から有声性による区別へ」2024年6月2日、東京外国語大学 府中キャンパス。	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	【その他】 - コメンテーター、「日本大学×清華大学 日本研究フォーラム 2024」、共催：精華大学外文系・日本大学文理学部、日本大学文理学部、2024年11月2日	